

各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のセンノシド B 以外のピークの合計面積は標準溶液(1)のセンノシドBのピーク面積より大きくなり。

#### 操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「セナ」の成分含量測定法の操作条件を準用する。  
検出感度：標準溶液(1) 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液(2)とする。標準溶液(2) 10 μL から得たセンノシド B のピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液(1) 10 μL から得たセンノシド B のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後から、センノシド B の保持時間の約 4 倍の範囲

ソーダ石灰 [K 8603, 二酸化炭素吸収用]

p-ソルビトール [医薬品各条]

p-ソルビトール、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

第三アミルアルコール t-アミルアルコール 見よ。

第三ブタノール t-ブチルアルコール 見よ。

ダイズ製ペプトン ペプトン、ダイズ製 見よ。

ダイズ油 [医薬品各条、第二部]

第二ブタノール 2-ブタノール 見よ。

多孔質シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

多孔性アクリロニトリル-ジビニルベンゼン共重合体(孔径 0.06 ~ 0.08 μm, 100 ~ 200 m<sup>2</sup>/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

多孔性エチルビニルベンゼン-ジビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.0075 μm, 500 ~ 600 m<sup>2</sup>/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。平均孔径は 0.0075 μm, 表面積は 1 g につき 500 ~ 600 m<sup>2</sup> である。

多孔性スレチング-ジビニルベンゼン共重合体(平均孔径 0.0085 μm, 300 ~ 400 m<sup>2</sup>/g), ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。平均孔径は 0.0085 μm, 表面積は 1 g につき 300 ~ 400 m<sup>2</sup> である。

多孔性ポリマービーズ、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

脱脂綿 [医薬品各条、第二部]

脱色フクシン試液 フクシン 1 g を水 100 mL に加え、約 50 °C に加温し、時々振り混ぜながら冷却する。この液を 48 時間放置し、振り混ぜてろ過する。ろ液 4 mL に塩酸 6 mL 及び水を加えて 100 mL とする。少なくとも 1 時間放置した後使用する。用時製する。

多硫化アンモニウム試液 (NH<sub>4</sub>)<sub>2</sub>S<sub>n</sub> [K 8943, 硫化アンモニウム溶液(黄色), 1 級]

タルク [医薬品各条、第二部]

タンゲステン(VI) 酸ナトリウム二水和物 Na<sub>2</sub>WO<sub>4</sub> · 2H<sub>2</sub>O [K 8612, 特級]

タンゲステン酸ナトリウム タンゲステン(VI) 酸ナトリウム二水和物 見よ。

炭酸アンモニウム [K 8613, 特級]

炭酸アンモニウム試液 炭酸アンモニウム 20 g にアンモニア試液 20 mL 及び水を加えて溶かし、100 mL とする。

炭酸カリウム K<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> [K 8615, 特級]

炭酸カリウム、無水 炭酸カリウム 見よ。

炭酸カリウム・炭酸ナトリウム試液 炭酸カリウム 1.7 g 及び無水炭酸ナトリウム 1.3 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸カルシウム CaCO<sub>3</sub> [K 8617, 特級]

炭酸水素アンモニウム NH<sub>4</sub>HCO<sub>3</sub> 白色又は半透明の結晶、結晶性の粉末又は塊でアンモニアのにおいがある。

炭酸水素カリウム KHCO<sub>3</sub> [K 8621, 特級]

炭酸水素ナトリウム NaHCO<sub>3</sub> [K 8622, 特級]

炭酸水素ナトリウム、pH 測定用 NaHCO<sub>3</sub> [K 8622, pH 標準液用]

炭酸水素ナトリウム試液 炭酸水素ナトリウム 5.0 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸銅 炭酸銅一水和物 見よ。

炭酸銅一水和物 CuCO<sub>3</sub> · Cu(OH)<sub>2</sub> · H<sub>2</sub>O 青色～青緑色の粉末で、水に溶けない。希酸に泡立って溶ける。アンモニア試液に溶け、深青色を呈する。

#### 純度試験

(1) 塩化物 0.036 % 以下

(2) 硫酸塩 0.120 % 以下

(3) 鉄 本品 5.0 g を過量のアンモニア試液に溶かし、ろ過する。残留物をアンモニア試液で洗い、希塩酸を加えて溶かした後、過量のアンモニア試液を加え、再びろ過する。残留物をアンモニア試液で洗い、恒量になるまで乾燥するとき、その量は 10 mg 以下である。

炭酸ナトリウム 炭酸ナトリウム十水和物 見よ。

炭酸ナトリウム(標準試薬) Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> [K 8005, 容量分析用標準物質]

炭酸ナトリウム、pH 測定用 Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> [K 8625, pH 標準液用]

炭酸ナトリウム、無水 Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> [K 8625, 炭酸ナトリウム、特級]

炭酸ナトリウム試液 無水炭酸ナトリウム 10.5 g を水に溶かし、100 mL とする(1 mol/L)。

炭酸ナトリウム試液, 0.55 mol/L 無水炭酸ナトリウム 5.83 g を水に溶かし、100 mL とする。

炭酸ナトリウム十水和物 Na<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> · 10H<sub>2</sub>O [K 8624, 特級]

炭酸プロピレン C<sub>4</sub>H<sub>8</sub>O<sub>3</sub> 無色の液体である。

沸点 240 ~ 242 °C

水分 本品 1 g 中、水分は 1 mg 以下とする。

炭酸プロピレン、水分測定用 一般試験法の水分測定法 見よ。

胆汁酸塩 一般試験法の生薬の微生物試験法 見よ。

タンニン酸 [医薬品各条]

タンニン酸試液 タンニン酸 1 g をエタノール(95) 1 mL に溶かし、水を加えて 10 mL とする。用時製する。

タンニン酸ジフェンヒドラミン [医薬品各条]

チアントール [医薬品各条、「チアントール」ただし、「イオウ・サリチル酸・チアントール軟膏」の確認試験(3)を準用し、試験を行うとき、主スポット以外のスポットを認めないもの]

**3-チエニルエチルペニシリンナトリウム**  $C_{14}H_{15}N_2NaO_4S_2$  白色～微黄白色の粉末である。水に極めて溶けやすく、メタノールに溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくい。  
水分 10.0 % 以下 (0.2 g, 容量滴定法, 直接滴定)。

旋光度  $[\alpha]_D^{20}$  : +265 ~ +290 ° (脱水物に換算したもの 0.5 g, 水, 50 mL, 100 mm)。

含量 換算した脱水物に対して 90 % 以上。定量法 本品約 0.1 g を精密に量り、水 35 mL に溶かし、0.1 mol/L 塩酸試液 0.75 mL を加え、更に 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム試液を加えて pH 8.5 に調整する。この液にペニシリン分解酵素 513000 Levy 単位に対応する量を水 25 mL に溶かし、フェノールフタレンのエタノール(95)溶液(1 → 1000) 1 滴を加え、液の色がわずかに紅色を呈するまで希水酸化ナトリウム試液を加えて中和したペニシリン分解酵素液 2 mL を加え、25 °C で 5 分間放置する。この液を 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で、pH 8.5 になるまで滴定する(電位差滴定法)。なお、水は新たに煮沸して冷却したもの用いる。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL  
= 36.240 mg  $C_{14}H_{15}N_2NaO_4S_2$

チオグリコール酸 メルカプト酢酸 見よ。

チオグリコール酸ナトリウム  $HSCH_2COONa$  [K 8631 : 1961, 特級] 遮光して冷暗所に保存する。

チオグリコール酸培地 I, 無菌試験用 一般試験法の無菌試験法 見よ。

チオグリコール酸培地 II, 無菌試験用 一般試験法の無菌試験法 見よ。

チオシアノ酸アンモニウム  $NH_4SCN$  [K 9000, 特級]

チオシアノ酸アンモニウム試液 チオシアノ酸アンモニウム 8 g を水に溶かし、100 mL とする (1 mol/L)。

チオシアノ酸アンモニウム・硝酸コバルト試液 チオシアノ酸アンモニウム・硝酸コバルト(II)試液 見よ。

チオシアノ酸アンモニウム・硝酸コバルト(II)試液 チオシアノ酸アンモニウム 17.4 g 及び硝酸コバルト(II)六水和物 2.8 g を水に溶かし、100 mL とする。

チオシアノ酸カリウム  $KSCN$  [K 9001, 特級]

チオシアノ酸カリウム試液 チオシアノ酸カリウム 1 g を水に溶かし、10 mL とする。

チオシアノ酸第一鉄試液 チオシアノ酸鉄(II)試液 見よ。

チオシアノ酸鉄(II)試液 水 35 mL に希硫酸 3 mL を加え、煮沸して溶存酸素を除く。この熱溶液に硫酸鉄(II)七水和物 1 g を溶かし、冷後、チオシアノ酸カリウム 0.5 g を加えて溶かす。液が微赤色を呈するときは、還元鉄を加えて脱色し、傾斜して過量の還元鉄を除き、酸素を遮って保存する。微赤色を呈したものは用いない。

チオジグリコール  $S(CH_2CH_2OH)_2$  [ $\beta$ -チオジグリコール、アミノ酸自動分析用] 無色～微黄色透明の液。

比重  $d_{40}^{20}$  : 1.180 ~ 1.190

水分 0.7 % 以下。

チオセミカルバジド  $H_2NCSNHNH_2$  [K 8632, 特級]

チオ尿素  $H_2NCSNH_2$  [K 8635, 特級]

チオ尿素試液 チオ尿素 10 g を水に溶かし、100 mL とす

る。

チオペンタール, 定量用  $C_{11}H_{18}N_2O_2S$  「チオペンタールナトリウム」 10 g に水 300 mL を加えて溶かす。この液に希塩酸 50 mL をかき混ぜながら徐々に加える。析出した結晶をろ取し、ろ液に塩化物の反応を認めなくなるまで水洗した後、風乾する。これに薄めたエタノール(3 → 5)を加え、水浴中で加熱して溶かし、放置した後、得られた結晶をろ取する。これを風乾した後、105 °C で 4 時間乾燥する。白色の結晶で、においはない。

融点 159 ~ 162 °C

#### 純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g をエタノール(99.5) 10 mL に溶かすとき、液は淡黄色透明である。

(2) 類縁物質 本品 0.05 g をアセトニトリル 15 mL に溶かした後、水を加えて 50 mL とし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、「チオペンタールナトリウム」の純度試験(4)の移動相を加えて正確に 200 mL とし、標準溶液とする。以下「チオペンタールナトリウム」の純度試験(4)を準用する。

乾燥減量 0.20 % 以下 (1 g, 105 °C, 3 時間)。

含量 99.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.35 g を精密に量り、エタノール(99.5) 5 mL 及びクロロホルム 50 mL を加えて溶かし、0.1 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 1 mL  
= 24.234 mg  $C_{11}H_{18}N_2O_2S$

チオ硫酸ナトリウム チオ硫酸ナトリウム五水和物 見よ。

チオ硫酸ナトリウム五水和物  $Na_2S_2O_3 \cdot 5H_2O$  [K 8637, 特級]

チオ硫酸ナトリウム試液 チオ硫酸ナトリウム五水和物 26 g 及び無水炭酸ナトリウム 0.2 g を新たに煮沸して冷却した水に溶かし、1000 mL とする (0.1 mol/L)。

チクセツサポニンIV, 薄層クロマトグラフ用  $C_{47}H_{74}O_{18} \cdot nH_2O$  白色の結晶性粉末で、メタノール又はエタノール(95)に溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点: 約 215 °C (分解)。

純度試験 類縁物質 本品 2 mg をメタノール 1 mL に溶かした液 5 μL につき、「チクセツニンジン」の確認試験を準用し、試験を行うとき、 $R_f$  値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。

チタンエロー  $C_{28}H_{19}N_5Na_2O_6S_4$  [K 8639, 特級]

窒素  $N_2$  [医薬品各条, 第二部]

チモール  $CH_3C_6H_3(OH)CH(CH_3)_2$  [医薬品各条, 第二部]

チモール, 定量用 [医薬品各条, 第二部「チモール」ただし、定量するとき、チモール( $C_{10}H_{14}O$ ) 99.0 % 以上を含むもの]

チモールフタレイン  $C_{28}H_{30}O_4$  [K 8642, 特級]

チモールフタレイン試液 チモールフタレイン 0.1 g をエタノール(95) 100 mL に溶かし、必要ならばろ過する。

チモールブルー  $C_{27}H_{30}O_5S$  [K 8643, 特級]

チモールブルー試液 チモールブルー 0.1 g をエタノール(95) 100 mL に溶かし、必要ならばろ過する。

チモールブルー試液, 希 チモールブルー 0.05 g をエタノール (99.5) 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する. 用時製する.

チモールブルー・ジオキサン試液 チモールブルー・1,4-ジオキサン試液 見よ.

チモールブルー・1,4-ジオキサン試液 チモールブルー 0.05 g を 1,4-ジオキサン 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する. 用時製する.

チモールブルー・ジメチルホルムアミド試液 チモールブルー・N,N-ジメチルホルムアミド試液 見よ.

チモールブルー・N,N-ジメチルホルムアミド試液 チモールブルー 0.1 g を N,N-ジメチルホルムアミド 100 mL に溶かす.

注射用蒸留水 蒸留水, 注射用 見よ.

注射用水 [医薬品各条, 第二部]

抽出用ジチゾン液 ジチゾン液, 抽出用 見よ.

中性アルミナ, 4 % 含水 カラムクロマトグラフ用中性アルミナを 105 °C で 2 時間乾燥し, その 50 g をとり, 気密容器に入れ, 水 2.0 mL を加え, よく振り混ぜて均質とした後, 2 時間以上放置する.

中性アルミナ, カラムクロマトグラフ用 カラムクロマトグラフ用に製造したもの.

中性アルミナ, クロマトグラフ用 クロマトグラフ用に製造したもの (粒度 75 ~ 180 μm).

中性洗剤 隣イオン系又は非イオン系の界面活性剤を含む合成の洗剤で, 0.25 % 溶液の pH は 6.0 ~ 8.0 である. 用時, 水で適当な濃度に薄める.

中和エタノール エタノール, 中和 見よ.

L-チロジン C<sub>9</sub>H<sub>11</sub>NO<sub>3</sub> [K 9049, 特級]

DEAE-架橋デキストラン陰イオン交換体 (Cl 型), 弱塩基性 ゲルろ過担体架橋デキストランにジエチルアミノエチル基を導入した弱塩基性陰イオン交換体.

***p,p'*-DDT (1,1,1-トリクロロ-2-(2-クロロフェニル)-2-(4-クロロフェニル)エタン)** C<sub>14</sub>H<sub>9</sub>Cl<sub>5</sub>

融点 73 ~ 75 °C

純度試験 類縁物質 *p,p'*-DDD の純度試験を準用する.

***p,p'*-DDT (1,1,1-トリクロロ-2,2-ビス (4-クロロフェニル)エタン)** C<sub>14</sub>H<sub>9</sub>Cl<sub>5</sub>

融点 108 ~ 110 °C

純度試験 類縁物質 *p,p'*-DDD の純度試験を準用する. ただし, 標準溶液 (1) は, 試料溶液 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL になるように調製する.

***p,p'*-DDD (2,2-ビス (4-クロロフェニル)-1,1-ジクロロエタン)** C<sub>14</sub>H<sub>10</sub>Cl<sub>4</sub>

融点 108 ~ 110 °C

純度試験 類縁物質 本品 0.010 g を生薬純度試験用ヘキサンに溶かし, 正確に 100 mL とする. この液 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし, 試料溶液とする. この液 2 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液 (1) とする. 試料溶液及び標準溶液 (1) 1 μL につき, 次の条件でガスクロマトグラ法により試験を行う. そ

れぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき, 試料溶液の *p,p'*-DDD 以外のピークの合計面積は標準溶液 (1) の *p,p'*-DDD のピーク面積より大きくない.

#### 操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は, 「ニンジン末」の純度試験 (3) の操作条件を準用する.

検出感度: 標準溶液 (1) 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 20 mL とし, 標準溶液 (2) とする. 標準溶液 (2) 1 μL から得た *p,p'*-DDD のピーク面積が自動積分法により測定されるよう調整する. また, 標準溶液 (1) 1 μL から得た *p,p'*-DDD のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する.

面積測定範囲: 溶媒のピークの後から *p,p'*-DDD の保持時間の約 2 倍の範囲

***p,p'*-DDE (2,2-ビス (4-クロロフェニル)-1,1-ジクロロエチレン)** C<sub>14</sub>H<sub>8</sub>Cl<sub>4</sub>

融点 88 ~ 90 °C

純度試験 類縁物質 *p,p'*-DDD の純度試験を準用する. ただし, 標準溶液 (1) は, 試料溶液 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL になるように調製する.

定量用アジマリン アジマリン, 定量用 見よ.

定量用アセトアルデヒド アセトアルデヒド, 定量用 見よ.

定量用アミドトリゾ酸 アミドトリゾ酸, 定量用 見よ.

定量用イオタラム酸 イオタラム酸, 定量用 見よ.

定量用イオボダートナトリウム イオボダートナトリウム, 定量用 見よ.

定量用イソニアジド イソニアジド, 定量用 見よ.

定量用イブプロフェン イブプロフェン, 定量用 見よ.

定量用エタクリン酸 エタクリン酸, 定量用 見よ.

定量用エナント酸メテノロン エナント酸メテノロン, 定量用 見よ.

定量用塩化ベンゼトニウム 塩化ベンゼトニウム, 定量用 見よ.

定量用塩酸エチレフリン 塩酸エチレフリン, 定量用 見よ.

定量用塩酸エフェドリン 塩酸エフェドリン, 定量用 見よ.

定量用塩酸オキシコドン 塩酸オキシコドン, 定量用 見よ.

定量用塩酸クロルプロマジン 塩酸クロルプロマジン, 定量用 見よ.

定量用塩酸ドバミン 塩酸ドバミン, 定量用 見よ.

定量用塩酸ニカルジピン 塩酸ニカルジピン, 定量用 見よ.

定量用塩酸パペリソ 塩酸パペリソ, 定量用 見よ.

定量用塩酸ヒドララジン 塩酸ヒドララジン, 定量用 見よ.

定量用塩酸ヒドロコタルニン 塩酸ヒドロコタルニン, 定量用 見よ.

定量用塩酸プロカイン 塩酸プロカイン, 定量用 見よ.

定量用塩酸プロカインアミド 塩酸プロカインアミド, 定量用

- を見よ。
- 定量用塩酸ペチジン 塩酸ペチジン, 定量用 を見よ。
- 定量用 *dl*-塩酸メチルエフェドリン *dl*-塩酸メチルエフェドリン, 定量用 を見よ。
- 定量用塩酸メピバカイン 塩酸メピバカイン, 定量用 を見よ。
- 定量用塩酸モルヒネ 塩酸モルヒネ, 定量用 を見よ。
- 定量用カイニン酸 カイニン酸, 定量用 を見よ。
- 定量用クロルジアゼポキシド クロルジアゼポキシド, 定量用 を見よ。
- 定量用クロルプロパミド クロルプロパミド, 定量用 を見よ。
- 定量用サリチル酸 サリチル酸, 定量用 を見よ。
- 定量用サントニン サントニン, 定量用 を見よ。
- 定量用ジドロゲステロン ジドロゲステロン, 定量用 を見よ。
- 定量用シネオール シネオール, 定量用 を見よ。
- 定量用ジモルホラミン ジモルホラミン, 定量用 を見よ。
- 定量用臭化ジスチグミン 臭化ジスチグミン, 定量用 を見よ。
- 定量用酒石酸レバロルファン 酒石酸レバロルファン, 定量用 を見よ。
- 定量用硝酸ストリキニーネ 硝酸ストリキニーネ, 定量用 を見よ。
- 定量用硝酸ナファゾリン 硝酸ナファゾリン, 定量用 を見よ。
- 定量用スルピリン スルピリン, 定量用 を見よ。
- 定量用チオペンタール チオペンタール, 定量用 を見よ。
- 定量用チモール チモール, 定量用 を見よ。
- 定量用ニコモール ニコモール, 定量用 を見よ。
- 定量用ヒベンズ酸チペビジン ヒベンズ酸チペビジン, 定量用 を見よ。
- 定量用ファモチジン ファモチジン, 定量用 を見よ。
- 定量用フェノール フェノール, 定量用 を見よ。
- 定量用フェノールスルホンフタレイン フェノールスルホンフタレイン, 定量用 を見よ。
- 定量用ブフェキサマク ブフェキサマク, 定量用 を見よ。
- 定量用フルラゼバム フルラゼバム, 定量用 を見よ。
- 定量用プロピルチオウラシル プロピルチオウラシル, 定量用 を見よ。
- 定量用マレイン酸ペルフェナジン マレイン酸ペルフェナジン, 定量用 を見よ。
- 定量用マレイン酸メチルエルゴメトリン マレイン酸メチルエルゴメトリン, 定量用 を見よ。
- 定量用メチルドバ メチルドバ, 定量用 を見よ。
- 定量用メフルシド メフルシド, 定量用 を見よ。
- 定量用 *l*-メントール *l*-メントール, 定量用 を見よ。
- 定量用ヨウ化イソプロピル ヨウ化イソプロピル, 定量用 を見よ。
- 定量用ヨウ化カリウム ヨードメタン, 定量用 を見よ。
- 定量用ヨウ化メチル ヨードメタン, 定量用 を見よ。
- 定量用ヨウ素 ヨウ素, 定量用 を見よ。
- 定量用リドカイン リドカイン, 定量用 を見よ。
- 定量用硫酸アトロピン 硫酸アトロピン, 定量用 を見よ。
- 定量用硫酸ベタニジン 硫酸ベタニジン, 定量用 を見よ。
- 定量用リン酸コデイン リン酸コデイン, 定量用 を見よ。
- 定量用リン酸ジヒドロコデイン リン酸ジヒドロコデイン, 定量用 を見よ。
- 定量用フルファリンカリウム ワルファリンカリウム, 定量用 を見よ。
- 2'-デオキシウリジン, 液体クロマトグラフ用  $C_9H_{12}N_2O_6$  白色の結晶性の粉末である。
- 融点 162 ~ 166 °C
- 純度試験 本品 3 mg を薄めたメタノール (1 → 25) に溶かし, 50 mL とする。この液 10  $\mu$ L につき、「イドクスウリジン点眼液」の純度試験の操作条件に従い, 液体クロマトグラフ法により試験を行う。主ピークの保持時間の約 2 倍の範囲について, 各々のピーク面積を自動積分法により測定し, 面積百分率法により 2'-デオキシウリジンの量を求めるとき 98.5 % 以上である。
- 含量 98.5 % 以上。定量法 本品を 60 °C で 3 時間減圧乾燥し, その約 5 mg を精密に量り, 水に溶かし, 正確に 250 mL とする。この液 10 mL を正確に量り, 水を加えて正確に 20 mL とする。この液につき, 紫外可視吸光度測定法により試験を行い, 262 nm 付近の吸収極大の波長における吸光度 A を測定する。
- $$\text{デオキシウリジン } (C_9H_{12}N_2O_6) \text{ の量 (mg)} = \frac{A}{447} \times 5000$$
- テオフィリン  $C_7H_8N_4O_2$  白色の粉末で, 水に溶けにくい。
- 融点 269 ~ 274 °C
- 純度試験 カフェイン, テオブロミン又はパラキサンチン本品 0.20 g に水酸化カリウム試液 5 mL 又はアンモニア試液 5 mL を加えるとき, 液はいずれも澄明である。
- 乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間)。
- 含量 99.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し, その約 0.25 g を精密に量り, *N,N*-ジメチルホルムアミド 40 mL に溶かし, 0.1 mol/L ナトリウムメトキシド液で滴定する(指示薬: チモールブルー・*N,N*-ジメチルホルムアミド試液 3 滴)。同様の方法で空試験を行い, 補正する。
- $$0.1 \text{ mol/L ナトリウムメトキシド液 } 1 \text{ mL} \\ = 18.016 \text{ mg } C_7H_8N_4O_2$$
- 1-デカンスルホン酸ナトリウム  $CH_3(CH_2)_9SO_3Na$  白色の粉末である。
- 溶状 本品 1.0 g を水 40 mL に溶かすとき, 液は無色透明である。
- 強熱残分 28.5 ~ 29.5 % (1 g)。
- 滴定用 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液 2,6-ジクロロインドフェノールナトリウム試液, 滴定用 を見よ。
- デソキシコール酸ナトリウム  $C_{24}H_{38}NaO_4$  本品は白色の結晶性の粉末で, においはない。
- 確認試験 本品を乾燥し, 赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき, 波数 3400  $cm^{-1}$ , 2940  $cm^{-1}$ , 1562  $cm^{-1}$  及び 1408  $cm^{-1}$  付近に吸収を認める。

**純度試験** 類縁物質 本品 0.10 g をメタノール 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-ブタノール/メタノール/酢酸 (100) 混液 (80 : 40 : 1) を展開浴媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに濃硫酸を均等に噴霧し、105 °C で 10 分間加熱するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

**鉄 Fe 片状、板状、粒状、線状などに成型したもの。鉄 (Fe)** 97.7 % 以上。磁石により吸引される。

**鉄試験用アスコルビン酸 L-アスコルビン酸** を見よ。

**鉄試験用酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、pH 4.5 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液、pH 4.5** 鉄試験用 を見よ。

**鉄・フェノール試液** 硫酸アンモニウム鉄 (II) 六水和物 1.054 g を水 20 mL に溶かし、硫酸 1 mL 及び過酸化水素 (30) 1 mL を加え、泡立ちが止むまで加熱した後、水を加えて 50 mL とする。この液 3 容量をメスフラスコにとり、冷却しながら硫酸を加えて 100 容量とし、鉄・硫酸溶液を製する。別にフェノールを再留し、初めの 10 % と、終わりの 5 % 容量を除いた留液を湿気を避けて約 2 倍容量の質量既知の乾燥共栓フラスコにとり、栓をして氷冷し、ガラス棒で表面の固まるのを防ぎながら完全に結晶させ、乾燥して質量を量る。このフラスコにフェノールの 1.13 倍質量の鉄・硫酸溶液を加え、密栓し、冷却せずに時々振り動かしてフェノールを溶かした後、激しく振り混ぜ、暗所に 16 ~ 24 時間放置する。この混液にその 23.5 % に相当する薄めた硫酸 (10 → 21) を加え、よく混和し、乾燥共栓瓶に入れ、湿気を避けて暗所に保存する。この溶液は 6 箇月以内に使用する。

**鉄・フェノール試液、希 鉄・フェノール試液** 10 mL に水 4.5 mL を加える。用時製する。

**鉄粉 Fe** [K 8262 : 1980, 還元鉄、特級]

**テトラエチルアンモニウムヒドロキシド試液** ( $C_8H_{17}$ )<sub>4</sub>NOH [K 8650 : 1964, テトラエチルアンモニウムヒドロキシド溶液 (10 %), 特級]

**テトラクロロ金 (III) 酸四水和物** HAuCl<sub>4</sub> · 4H<sub>2</sub>O [K 8127, 特級]

**テトラクロロ金 (III) 酸試液** テトラクロロ金 (III) 酸四水和物 1 g を水 35 mL に溶かす。

**テトラクロロ金試液** テトラクロロ金 (III) 酸試液 を見よ。

**テトラサイクリン**  $C_{22}H_{24}N_2O_8$  [医薬品各条、「テトラサイクリン」]

**テトラヒドロキシキノン**  $C_6H_8O_6$  暗青色の結晶で、光によって黄色に変わる。エタノール (95) にやや溶けやすく、水にやや溶けにくい。

**テトラヒドロキシキノン指示薬** テトラヒドロキシキノン 1 g に白糖 100 g を加え、均等に混和する。

**テトラヒドロフラン**  $CH_2(CH_2)_2CH_2O$  [K 9705, 特級]

**テトラヒドロフラン、ガスクロマトグラフ用** テトラヒドロフランに硫酸鉄 (II) 七水和物を加えて蒸留する。

**貯法** 窒素を封入し、冷暗所で保存する。

**テトラフェニルホウ酸ナトリウム** ( $C_6H_5$ )<sub>4</sub>BNa [K 9521, テトラフェニルほう酸ナトリウム、特級]

**テトラフェニルボロンカリウム試液** フタル酸水素カリウム溶液 (1 → 500) 50 mL に酢酸 (31) 1 mL を加える。この液にテトラフェニルホウ酸ナトリウム溶液 (7 → 1000) 20 mL を加えてよく振り混ぜ、1 時間放置した後、生じた沈殿洗する。沈殿の  $\frac{1}{3}$  量をとり、水 100 mL を加えて約 50 °C で振り混ぜながら 5 分間加温した後、急冷し、常温で時々振り混ぜ、2 時間放置した後、ろ過する。初めのろ液 30 mL を除く。

**テトラフェニルボロンナトリウム** テトラフェニルホウ酸ナトリウム を見よ。

**テトラブチルアンモニウムヒドロキシド試液** テトラブチルアンモニウムヒドロキシド [( $C_4H_9$ )<sub>4</sub>NOH : 259.48] を 13 g/dL 含む水溶液である。

含量 11.7 ~ 14.3 g/dL。定量法 あらかじめ水 15 mL を入れた共栓フラスコの質量を量り、これにテトラブチルアンモニウムヒドロキシド ( $C_4H_9$ )<sub>4</sub>NOH 約 0.3 g に対応する量を精密に量り、0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 3 滴)。

$$0.1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL} = 25.947 \text{ mg } C_{16}H_{37}NO$$

**テトラブチルアンモニウムヒドロキシド試液、40%** テトラブチルアンモニウムヒドロキシド [( $C_4H_9$ )<sub>4</sub>NOH : 259.48] を 40 g/dL 含む水溶液である。

含量 36 ~ 44 g/dL。定量法 本品 10 mL を正確に量り、1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 3 滴)。

$$1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL} = 259.47 \text{ mg } C_{16}H_{37}NO$$

**テトラブチルアンモニウムヒドロキシド試液、0.005 mol/L**

テトラブチルアンモニウムヒドロキシド試液 10 mL に水 700 mL を加え、薄めたリン酸 (1 → 10) を加えて pH を 4.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

**テトラブチルアンモニウムヒドロキシド・メタノール試液** テトラブチルアンモニウムヒドロキシド [( $C_4H_9$ )<sub>4</sub>NOH : 259.48] を 25 g/dL 含むメタノール溶液である。無色~微黄色澄明の液で、アンモニア臭がある。

含量 22.5 ~ 27.5 g/dL。定量法 本品 15 mL を正確に量り、1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 3 滴)。

$$1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL} = 259.47 \text{ mg } C_{16}H_{37}NO$$

**10 % テトラブチルアンモニウムヒドロキシド・メタノール試液** テトラブチルアンモニウムヒドロキシド [( $C_4H_9$ )<sub>4</sub>NOH : 259.48] を 10 g/dL 含むメタノール溶液である。

含量 9.0 ~ 11.0 g/dL。定量法 あらかじめ水 20 mL を入れた共栓フラスコに本品 2 mL を正確に量り、0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液 3 滴)。

$$0.1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL} = 25.947 \text{ mg } C_{16}H_{37}NO$$

**テトラブロムフェノールフタレインエチルエステルカリウム塩** テトラブロモフェノールフタレインエチルエステルカリウムを見よ。

テトラプロムフェノールタレインエチルエステル試液 テトラブロモフェノールタレインエチルエステル試液 を見よ。

テトラブロモフェノールタレインエチルエステルカリウム  $C_{22}H_{13}O_4Br_4K$  [K 9042, 特級]

テトラブロモフェノールタレインエチルエステル試液 テトラブロモフェノールタレインエチルエステルカリウム 0.1 g を酢酸 (100) に溶かし、100 mL とする。用時製する。

テトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $(CH_3)_4NOH$  通例、約 10 % の水溶液として知られている。無色透明の液で強いアンモニア臭がある。本品はアンモニアよりその塩基度は強い。空気中でたやすく二酸化炭素を吸収する。10 % 水溶液を用いる。

純度試験 アンモニア及び他のアミン類 あらかじめ水約 5 mL を入れたはかり瓶にテトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $[(CH_3)_4NOH]$  約 0.3 g に対応する量を正確に量り、これに 1 mol/L 塩酸をやや過量 (約 4 mL) 加えた後、水浴上で蒸発乾固する。残留物を 105 °C で 2 時間乾燥したもの (塩化テトラメチルアンモニウム) に 0.8317 を乗じて得たテトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $[(CH_3)_4NOH]$  の量は、定量法で得たテトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $[(CH_3)_4NOH]$  の量の ±0.2 % である。

不揮発性残分 0.02 % 以下 (5 mL, 105 °C, 1 時間)。

含量 表示量の 98 % 以上。定量法 あらかじめ水 15 mL を入れた共栓フラスコの質量を量り、これにテトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $[(CH_3)_4NOH]$  約 0.2 g に対応する量を正確に量り、0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: メチルレッド試液)。

$$0.1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL } = 9.115 \text{ mg } C_4H_{13}NO$$

テトラメチルアンモニウムヒドロキシド試液 テトラメチルアンモニウムヒドロキシド 15 mL を正確に量り、エタノール (99.5) を加えて正確に 100 mL とする。

テトラメチルアンモニウムヒドロキシド試液、pH 5.5 テトラメチルアンモニウムヒドロキシド 10 mL に水 990 mL を加え、薄めたリン酸 (1 → 10) を用いて pH 5.5 に調整する。

テトラメチルアンモニウムヒドロキシド・メタノール試液 テトラメチルアンモニウムヒドロキシド  $[(CH_3)_4NOH : 91.15]$  を 10 g/dL 含むメタノール溶液である。

含量 9.0 ~ 11.0 g/dL。定量法 あらかじめ水 20 mL を入れた共栓フラスコに本品 2 mL を正確に量り、0.1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: ブロモクレゾールグリシン・メチルレッド試液)。

$$0.1 \text{ mol/L 塩酸 } 1 \text{ mL } = 9.115 \text{ mg } C_4H_{13}NO$$

*N,N,N',N'-テトラメチルエチレンジアミン*

$(CH_3)_2NCH_2CH_2N(CH_3)_2$  微黄色透明な液体である。

比重  $d_4^{20}$  : 0.774 ~ 0.799

含量 99.0 % 以上。

テトラメチルシラン、核磁気共鳴スペクトル測定用  $(CH_3)_4Si$  核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの。

デバルダ合金 [K 8653, 特級]

*N-デメチルロキシロマイシン*  $C_{40}H_{74}N_2O_{15}$  白色の粉末で

ある。

確認試験 本品のクロロホルム溶液 (1 → 1000) を試料溶液とし、赤外吸収スペクトル測定法の溶液法により層長 0.1 mm の臭化カリウム製固定セルを用いて測定するとき、波数  $3600 \text{ cm}^{-1}$ ,  $3524 \text{ cm}^{-1}$ ,  $3445 \text{ cm}^{-1}$ ,  $3335 \text{ cm}^{-1}$ ,  $1730 \text{ cm}^{-1}$ , 及び  $1627 \text{ cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

テルフェニル  $C_{18}H_{14}$  白色の結晶性の粉末である。

融点 208 ~ 213 °C

確認試験 本品のメタノール溶液 (1 → 250000) につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定するとき、波長 276 ~ 280 nm に吸収の極大を示す。

*p*-テルフェニル テルフェニル を見よ。

テレビン油 [医薬品各条、第二部]

テレフタル酸  $C_6H_4(COOH)_2$  白色の結晶又は結晶性の粉末で、エタノール (95) に溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

強熱残分 0.3 % 以下 (1 g)。

含量 95.0 % 以上。定量法 本品約 2 g を精密に量り、1 mol/L 水酸化ナトリウム液 50 mL を正確に加えて溶かし、1 mol/L 塩酸で滴定する (指示薬: フェノールタレイン試液 3 滴)。同様の方法で空試験を行う。

$$1 \text{ mol/L 水酸化ナトリウム液 } 1 \text{ mL } = 83.07 \text{ mg } C_6H_6O_4$$

テレフタル酸、ガスクロマトグラフ用  $C_6H_4(COOH)_2$  ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

テレフタル酸ジエチル  $C_6H_4(COOC_2H_5)_2$  白色~帶微褐色の結晶又は塊である。

融点 44 ~ 46 °C

含量 99 % 以上。定量法 本品 100 mg をとり、メタノール 10 mL に溶かす。この液 2 μL につき、ガスクロマトグラフ法により次の条件で試験を行う。得られたクロマトグラムにつき自動積分法により、それぞれの成分のピーク面積を測定する。

$$\text{含量 } = \frac{\text{テレフタル酸ジエチルのピーク面積}}{\text{それぞれの成分のピーク面積の総和}} \times 100$$

操作条件

検出器: 水素炎イオン化検出器

カラム: 内径 4 mm, 長さ 2 m のガラス管に SE-30 を 177 ~ 250 μm のシマライト W (AW, DMCS) に 10 % の割合で被覆したものを充てんする。

カラム温度: 200 °C 付近の一定温度

キャリヤーガス及び流量: ヘリウムを用い、毎分約 50 mL の一定量でテレフタル酸ジエチルの保持時間が 6 ~ 7 分となる流量

測定範囲: 溶媒ピークが流出した後、テレフタル酸ジエチルの保持時間の 5 倍まで測定する。

デンプン [K 8658, でんぶん, 特級]

デンプン、溶性 [K 8659, でんぶん (溶性), 特級]

デンプン・塩化ナトリウム試液 デンプン試液に塩化ナトリウムを飽和する。調製後 5 ~ 6 日以内に用いる。

デンプン試液 デンプン 1 g を冷水 10 mL とよくすり混ぜ、これを熱湯 200 mL 中に絶えずかき混ぜながら徐々に注ぎ込み、液が半透明となるまで煮沸し、放置した後、上澄液を

用いる。用時製する。

でんぶん消化力試験用パレイショデンブン試液 パレイショデンブン試液、でんぶん消化力試験用 見よ。

でんぶん消化力試験用フェーリング試液 フェーリング試液、でんぶん消化力試験用 見よ。

銅 Cu [K 8660, 特級]

銅(標準試薬) Cu [K 8005, 容量分析用標準物質]

銅エチレンジアミン試液, 1 mol/L 水酸化銅(II) 100 g を 500 mL 目盛線をした 1000 mL 肉厚の試薬瓶に入れ、水を加えて 500 mL とする。液注入用分液漏斗、窒素導入用ガラス管及びガス排出用ガラス管をさし込んだゴム栓を試薬瓶に付ける。窒素導入管の下端の位置は試薬瓶の底から約 1.3 cm の高さになるように調節する。窒素導入管より約 14 kPa に減圧した窒素を通じ、必要ならば適当な調節器を用いて液が穏やかに泡立つように調節し、約 3 時間試薬瓶内の空気を窒素で置換する。試薬瓶内に通じた窒素はガス排出管より排出させる。同様にして窒素を通じ、更に流水で冷却しながら、液注入用分液漏斗からエチレンジアミン試液 160 mL を徐々に加える。液注入用分液漏斗を取り外し、ゴム栓の穴をガラス棒で栓をする。更に約 10 分間窒素を通じた後、ガス排出管を取り外し、同様にゴム栓の穴をガラス棒で栓をする。試薬瓶の内部は引続き窒素で加圧状態とし、圧力が約 14 kPa の窒素雰囲気とする。試薬瓶は時々振り混ぜながら、約 16 時間放置する。必要ならばガラスろ過器を用いて減圧ろ過し、再び窒素雰囲気下で保存する。このようにして得た液の銅(II) イオンの濃度は約 1.3 mol/L である。定量法により、この液のエチレンジアミンの濃度  $X$  (mol/L) 及び銅(II) イオンの濃度  $Y$  (mol/L) を求め、その各値から  $X$  は 1.96 ~ 2.04,  $Y$  は 0.98 ~ 1.02 及び  $X/Y$  は 1.96 ~ 2.04 となるように、水、水酸化銅(II) 又はエチレンジアミン試液を加え、再び同様にして定量し、試液とする。

#### 定量法

(1) エチレンジアミン 調製した液 1 mL ( $V_1$ ) を正確に量り、水 60 mL を加え、0.1 mol/L 塩酸で滴定する(pH 測定法、終点 pH 約 8.4)。

$$X = \frac{N_1 a}{V_1}$$

$X$  : 調製した液中のエチレンジアミンの濃度(mol/L)

$a$  : 0.1 mol/L 塩酸の消費量 (mL)

$N_1$  : 塩酸の濃度 (mol/L)

(2) 銅(II) イオン 調製した液 2 mL ( $V_2$ ) を正確に量り、水 20 mL、ヨウ化カリウム約 3 g 及び 2 mol/L 硫酸試液 50 mL を加え、更に 5 分間振り混ぜた後、遊離したヨウ素を 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する。ただし、滴定の終点は液が終点近くで淡黄色になったとき、デンブン試液 3 mL 及びチオシアニ酸アンモニウム溶液(1 → 5) 10 mL を加え、生じた青色が脱色したときとする。

$$Y = \frac{N_2 b}{V_2}$$

$Y$  : 調製した液中の銅(II) イオンの濃度 (mol/L)

$b$  : 0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液の消費量 (mL)

$N_2$  : チオ硫酸ナトリウム液の濃度 (mol/L)

銅試液、アルカリ性 無水炭酸ナトリウム 2 g を 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム試液 100 mL に溶かす。この液 50 mL をとり、硫酸銅(II) 五水和物溶液(1 → 100) と酒石酸カリウム溶液(1 → 50) の混液(1 : 1) 1 mL を加えて混和する。

Cu-PAN 1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトール(遊離酸) 1 g 及びエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム銅四水和物 11.1 g を混合して製する。灰だいだい黄色、灰赤褐色又は淡灰紫色の粉末である。

吸光度 本品 0.50 g をとり、薄めた 1,4-ジオキサン(1 → 2) に溶かし、正確に 50 mL とする。この液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とする。この液につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき、波長 470 nm における吸光度は 0.48 以上である。

純度試験 溶状 本品 0.5 g を薄めた 1,4-ジオキサン(1 → 2) 50 mL に溶かすとき、液は黄褐色透明である。

Cu-PAN 試液 Cu-PAN 1 g を薄めた 1,4-ジオキサン(1 → 2) 100 mL に溶かす。

トウモロコシ油 [医薬品各条、第二部]

トコフェロール  $C_{29}H_{50}O_2$  [医薬品各条]

デシルベンゼンスルホン酸ナトリウム  $C_{18}H_{29}SO_3Na$  本品は白色の結晶性の粉末又は塊である。

pH: 本品 0.5 g を新たに煮沸して冷却した水 50 mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 7.0 である。ただし、窒素を通じ、かき混ぜながら 25 °C で測定する。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 2 時間)。

含量 99.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.04 g を精密に量り、水 20 mL 及び過酸化水素(30) 2 mL の混液を吸収液とし、酸素フラスコ燃焼法のイオウの定量法により試験を行う。

0.01 mol/L 過塩素酸バリウム液 1 mL

= 1.7424 mg  $C_{18}H_{29}SO_3Na$

ドーラゲンドルフ試液 次硝酸ビスマス 0.85 g を酢酸

(100) 10 mL 及び水 40 mL を加え、激しく振り混ぜて溶かし A 液とする。ヨウ化カリウム 8 g を水 20 mL に溶かし、B 液とする。使用直前に A 液、B 液及び酢酸(100)のそれぞれ等容量を混和して用いる。A 液及び B 液は遮光して保存する。

ドーラゲンドルフ試液、噴霧用 ドーラゲンドルフ試液の A 液及び B 液の等容量混液 4 mL に薄めた酢酸(31)(1 → 5) 20 mL を加える。用時製する。

トラガント末 [医薬品各条、第二部]

トリアムシノロンアセトニド  $C_{24}H_{31}FO_6$  [医薬品各条]

トリエタノールアミン 2,2'-ニトリロトリエタノール 見よ。

トリエチルアミン  $(C_2H_5)_3N$  無色透明の液で、強いアミン臭がある。メタノール、エタノール(95)又はジエチルエテルと混和する。

比重  $d_4^{25}$  : 0.722 ~ 0.730

沸点 89 ~ 90 °C

**トリエチルアミン・リン酸緩衝液, pH 5.0** トリエチルアミン 1.0 mL に水 900 mL を加え、薄めたリン酸 (1 → 10) を用いて pH を 5.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

**トリクロロ酢酸** トリクロロ酢酸を見よ。

**トリクロロ酢酸**  $\text{CCl}_3\text{COOH}$  [K 8667, 特級]

**トリクロロ酢酸試液** トリクロロ酢酸 1.80 g, 酢酸ナトリウム三水和物 2.99 g 及び酢酸 (31) 1.98 g を水に溶かし、100 mL とする。

**トリクロロ酢酸・ゼラチン・トリス緩衝液** トリクロロ酢酸溶液 (1 → 5) 1 容量に pH 8.0 のゼラチン・トリス緩衝液 6 容量及び水 5 容量を加える。

**1,1,2-トリクロロ-1,2,2-トリフルオロエタン**  $\text{CFCl}_2\text{CF}_2\text{Cl}$  無色、揮発性の液体である。アセトン及びジエチルエーテルと混和し、水と混和しない。

純度試験 類縁物質 本品 0.1  $\mu\text{L}$  につき、「ハロタン」の純度試験 (5) の操作条件に従い、ガスクロマトグラフ法により試験を行うとき、本品以外のピークを認めない。

**トリス緩衝液, 0.05 mol/L, pH 7.0** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 6.06 g を水約 750 mL に溶かし、1 mol/L 塩酸試液を加えて pH を 7.0 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

**トリス緩衝液, 0.1 mol/L, pH 8.0** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 2.42 g を水 100 mL に溶かし、0.2 mol/L 塩酸試液で pH を 8.0 に調整し、水を加えて 200 mL とする。

**トリス緩衝液, エンドトキシン試験用** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 18.2 g をエンドトキシン試験用水 800 mL に溶かし、0.1 mol/L 塩酸試液 100 mL 及びエンドトキシン試験用水を加えて 1000 mL とした後、121 °C で 90 分間、高圧蒸気滅菌する。

**トリス緩衝液, pH 7.0** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 24.3 g を水 1000 mL に溶かし、0.1 mol/L 塩酸を加え、pH を 7.0 に調整する。

**トリス緩衝液, pH 8.2** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 24.2 g 及びポリソルベート 20 0.5 g を水 800 mL に溶かし、1 mol/L 塩酸試液で pH 8.2 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

**トリス緩衝液, pH 9.5** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオール 36.3 g に水 1000 mL を加えて溶かし、1 mol/L 塩酸試液を加えて pH 9.5 に調整する。

**トリスヒドロキシメチルアミメタン** 2-アミノ-2-ヒドロキシメチル-1,3-プロパンジオールを見よ。

**トリデカンスルホン酸ナトリウム**  $\text{C}_{13}\text{H}_{27}\text{SO}_3\text{Na}$  白色の結晶又は粉末である。

純度試験 吸光度 本品 1.43 g を水 1000 mL に溶かした液につき、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき、波長 230 nm 及び 254 nm における吸光度はそれぞれ 0.05 以下及び 0.01 以下である。

**2,4,6-トリニトロフェノール**  $\text{HOC}_6\text{H}_2(\text{NO}_2)_3$  [K 8759 : 1984, 特級] 密閉し、火気を避け冷所に保存する。

**2,4,6-トリニトロフェノール・エタノール試液** 2,4,6-トリニトロフェノール 1.8 g を薄めたエタノール (9 → 10) 50

mL 及び水 30 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。

**2,4,6-トリニトロフェノール試液** 2,4,6-トリニトロフェノール 1 g を熱湯 100 mL に溶かし、冷却し、必要ならばろ過する。

**2,4,6-トリニトロフェノール試液, アルカリ性** 2,4,6-トリニトロフェノール試液 20 mL 及び水酸化ナトリウム溶液 (1 → 20) 10 mL を混和し、水を加えて 100 mL とする。調製後 2 日以内に使用する。

**2,4,6-トリニトロベンゼンスルホン酸**

$\text{C}_6\text{H}_2(\text{NO}_2)_3\text{SO}_3\text{H} \cdot 2\text{H}_2\text{O}$  微黄色～淡黄色の粉末である。

水分 11 ~ 15 % (0.1 g, 容量滴定法, 直接滴定)。

含量 換算した脱水物に対し 98 %以上。定量法 本品約 0.3 g を精密に量り、水/エタノール (99.5) 混液 (1 : 1) 50 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL

= 29.317 mg  $\text{C}_6\text{H}_2(\text{NO}_2)_3\text{SO}_3\text{H}$

**トリフェニルクロルメタン** トリフェニルクロロメタンを見よ。

**トリフェニルクロロメタン**  $(\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{CCl}$  [K 8674 : 1978, 特級]

**2,3,5-トリフェニル-2H-テトラゾリウム塩酸塩**  $\text{C}_{19}\text{H}_{15}\text{ClN}_4$  [K 8214, 塩化 2,3,5-トリフェニル-2H-テトラゾリウム, 特級]

**2,3,5-トリフェニル-2H-テトラゾリウム塩酸塩試液** 2,3,5-トリフェニル-2H-テトラゾリウム塩酸塩 0.25 g をエタノール (99.5) に溶かし、100 mL とする。用時製する。

**トリプシンインヒビター** 大豆より精製し、1 mg はトリプシン 10000 ~ 30000 BAEE 単位を阻害する。ただし、1 BAEE 単位とは  $N-\alpha$ -ベンゾイル-L-アルギニンエチルを基質とし、pH 7.6, 25 °C, 液量 3.2 mL で反応させると、1 分間に波長 253 nm における吸光度差 0.001 を示すトリプシン活性をいう。

**トリプシンインヒビター試液** トリプシンインヒビター 5 mg を pH 7.0 の 0.05 mol/L リン酸塩緩衝液に溶かし、10 mL とする。

**トリプシン** 液体クロマトグラフ用 ウシ脾臓より製し、下記の反応系において、液体クロマトグラフ用トリプシン 1 部はカゼイン 250 部を分解する。

**カゼイン溶液** 乳製カゼイン 0.1 g に水 30 mL を加え、よく分散させた後、薄めた水酸化ナトリウム試液 (1 → 10) 1.0 mL を加えて溶かし、更に水を加えて全量を 50 mL とする。用時製する。

**試料溶液** 液体クロマトグラフ用トリプシン 0.01 g に水 500 mL を加えて溶かす。

**操作法** カゼイン溶液 5 mL に試料溶液 2 mL 及び水 3 mL を加えて混和し、40 °C に 1 時間放置した後、エタノール (95) /水/酢酸 (100) 混液 (10 : 9 : 1) 3 滴を加えるとき、沈殿を生じない。

**トリプシン試液, ウリナスタチン試験用** ウリナスタチン定量用結晶トリプシンを 1 mmol/L の塩化カルシウム二水和物

を含む氷冷した 1 mmol/L 塩酸試液に溶かし、その 1 mL 中に 180  $\mu\text{g}$  を含むように調製する。用時調製し、氷冷して保存する。

トリプシン試液、エルカトニン試験用 液体クロマトグラフ用 トリプシン 5 mg に炭酸水素アンモニウム溶液 (1 → 100) 20 mL を加えて溶かす。用時製する。

L-トリプトファン  $\text{C}_{11}\text{H}_{12}\text{N}_2\text{O}_2$  [医薬品各条]

トリフルオロ酢酸  $\text{CF}_3\text{COOH}$  無色澄明の液体で、強い刺激性のにおいがあり、水とよく混和する。

沸点 72 ~ 73 °C

比重  $d_{4}^{20}$  : 1.535

トリフルオロ酢酸、核磁気共鳴スペクトル測定用

$\text{CF}_3\text{COOH}$  核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの。

トリフルオロ酢酸試液 トリフルオロ酢酸 1 mL を水に溶かし、1000 mL とする。

トリメチルシリルイミダゾール  $\text{C}_6\text{H}_{12}\text{N}_2\text{Si}$  無色～微黄色の澄明な液である。

屈折率  $n_{D}^{20}$  : 1.4744 ~ 1.4764

3-トリメチルシリルプロパンスルホン酸ナトリウム、核磁気共鳴スペクトル測定用  $(\text{CH}_3)_3\text{SiCH}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{SO}_3\text{Na}$  核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの。

3-トリメチルシリルプロピオン酸ナトリウム-d<sub>4</sub>、核磁気共鳴スペクトル測定用  $(\text{CH}_3)_3\text{SiCD}_3\text{COONa}$  核磁気共鳴スペクトル測定用に製造したもの。

トライジンブルー  $\text{C}_{15}\text{H}_{16}\text{ClN}_3\text{S}$  暗緑色の粉末で、水にやや溶けやすく、エタノール (95) に溶けにくい。

o-トルイル酸  $\text{C}_8\text{H}_8\text{O}_2$  白色の結晶又は結晶性の粉末である。

融点 102 ~ 105 °C

含量 98.0 % 以上。

トルエン  $\text{C}_6\text{H}_6\text{CH}_3$  [K 8680, 特級]

o-トルエンスルホンアミド  $\text{C}_7\text{H}_9\text{NO}_2\text{S}$  無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、エタノール (95) にやや溶けやすく、水にやや溶けにくい。

融点 157 ~ 160 °C

純度試験 カ-トルエンスルホンアミド 本品の酢酸エチル溶液 (1 → 5000) を試料溶液とする。この液 10  $\mu\text{L}$  につき、「サッカリンナトリウム」の純度試験 (6) の操作条件に従い、ガスクロマトグラ法により試験を行うとき、本品以外のピークを認めない。ただし、流量は o-トルエンスルホンアミドの保持時間が約 10 分になるように調整し、検出感度は試料溶液 10  $\mu\text{L}$  から得た o-トルエンスルホンアミドのピーク高さがフルスケールの約 50 % になるように調整する。また、ピーク測定範囲は溶媒のピークの後から o-トルエンスルホンアミドの保持時間の約 2 倍の範囲とする。

水分 0.5 % 以下 (4 g, 溶媒には水分測定用メタノール 25 mL 及び水分測定用ピリジン 5 mL を用いる)。

含量 換算した脱水物に対し、98.5 % 以上。定量法 本品約 0.025 g を精密に量り、窒素定量法により試験を行う。

0.005 mol/L 硫酸 1 mL = 1.7122 mg  $\text{C}_7\text{H}_9\text{NO}_2\text{S}$

p-トルエンスルホンアミド  $\text{CH}_3\text{C}_6\text{H}_4\text{SO}_2\text{NH}_2$  白色の結晶又

は結晶性の粉末である。融点：約 137 °C

純度試験 類縁物質 本品 0.030 g をアセトンに溶かし、正確に 200 mL とした液 10  $\mu\text{L}$  につき、「トラザミド」の純度試験 (3) を準用して、試験を行うとき、R<sub>f</sub> 値約 0.6 の主スポット以外のスポットを認めない。

トルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物

$\text{C}_7\text{H}_7\text{ClNNaO}_2\text{S} \cdot 3\text{H}_2\text{O}$  [K 8318, p-トルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物、特級]

トルエンスルホンクロロアミドナトリウム試液 トルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物 1 g を水に溶かし、100 mL とする。用時製する。

p-トルエンスルホン酸 p-トルエンスルホン酸一水和物 を見よ。

p-トルエンスルホン酸一水和物  $\text{CH}_3\text{C}_6\text{H}_4\text{SO}_3\text{H} \cdot \text{H}_2\text{O}$  [K 8681, 特級]

トルブタミド  $\text{C}_{12}\text{H}_{18}\text{N}_2\text{O}_3\text{S}$  [医薬品各条]

L-トレオニン  $\text{C}_4\text{H}_9\text{NO}_3$  [医薬品各条]

トロンビン [医薬品各条、第二部]

ナトリウム Na (K 8687, 特級)

ナトリウム、金属 ナトリウム を見よ。

ナトリウムペンタシアノアンミンフェロエート ペンタシアノアン鉄 (II) 酸ナトリウム n 水和物 を見よ。

七モリブデン酸六アンモニウム試液 七モリブデン酸六アンモニウム四水和物 21.2 g を水に溶かし、200 mL とする (10 %)。用時製する。

七モリブデン酸六アンモニウム四水和物

$(\text{NH}_4)_6\text{Mo}_7\text{O}_24 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$  [K 8905, 特級]

七モリブデン酸六アンモニウム・硫酸試液 七モリブデン酸六アンモニウム四水和物 1.0 g を薄めた硫酸 (3 → 20)。に溶かし、40 mL とする。用時製する。

ナフタレン  $\text{C}_{10}\text{H}_8$  [K 8690 : 1976, 特級]

$\alpha$ -ナフチルアミン 1-ナフチルアミン を見よ。

1-ナフチルアミン  $\text{C}_{10}\text{H}_7\text{NH}_2$  [K 8692, 特級] 遮光して保存する。

ナフチルエチレンジアミン試液 N-1-ナフチルエチレンジアミン二塩酸塩 0.1 g を水に溶かし、100 mL とする。用時製する。

N-1-ナフチルエチレンジアミン二塩酸塩

$\text{C}_{10}\text{H}_7\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{NH}_2 \cdot 2\text{HCl}$  [K 8197, 特級]

$\alpha$ -ナフトール 1-ナフトール を見よ。

$\beta$ -ナフトール 2-ナフトール を見よ。

1-ナフトール  $\text{C}_{10}\text{H}_7\text{OH}$  [K 8698, 特級] 遮光して保存する。

2-ナフトール  $\text{C}_{10}\text{H}_7\text{OH}$  [K 8699, 特級] 遮光して保存する。

$\alpha$ -ナフトール試液 1-ナフトール試液 を見よ。

$\beta$ -ナフトール試液 2-ナフトール試液 を見よ。

1-ナフトール試液 水酸化ナトリウム 6 g 及び無水炭酸ナトリウム 16 g を水に溶かし、100 mL とする。この液に 1-ナフトール 1 g を溶かす。用時製する。

2-ナフトール試液 2-ナフトール 1 g を炭酸ナトリウム試液に溶かし、100 mL とする。用時製する。

$\alpha$ -ナフトールベンゼイン p-ナフトールベンゼイン を見よ。

p-ナフトールベンゼイン  $\text{C}_{27}\text{H}_{26}\text{O}_3$  [K 8693, 特級]

$\alpha$ -ナフトールベンゼイン試液 p-ナフトールベンゼイン試液